

プログラム

受付開始 9:30~

開会の挨拶 10:00~10:05 日本薬史学会 2017 年会会長 船山信次

会長挨拶 10:05~10:10 日本薬史学会会長 折原 裕

口頭発表 1~3 10:10~10:55 (各 15 分)

座長：江戸清人(仙台医健専門学校)、藤掛佳男(日本薬大)

O-1. 近代西欧医学・薬学発祥史 第 12 報 薬物有効成分の抽出と結晶化 その 2

辰野美紀 (順天堂大学医学部医史学研究室)

O-2. 文献と証言から石館守三博士のプロミン合成法を探る

○森本和滋¹、宮田直樹² (¹日本薬史学会、²名古屋市立大学 創薬基盤科学研究所)

O-3. ステロイドの構造研究への分光学的測定法の応用に関する史的考察 (第 1 報) 核磁気共鳴スペクトル測定法について

○八百板康範、町田浩一 (東北医薬大・薬)

特別講演・市民公開講座 11:00~12:00

座長：Julia YONGUE (法政大)

カレーと漢方にまつわる話

丁宗鐵 (日本薬科大学 学長)

昼休み休憩 12:00~13:00

理事会・評議員会 12:05~12:55

口頭発表 4～9 13:00～14:30 (各 15 分)

座長：鈴木達彦(帝京平成大)、小林力(日本薬大)

- O-4. 医薬品の一般名に関する考察 (6)：中枢神経系作用薬
三澤美和 (星薬科大学名誉教授)
- O-5. 歴史的薬局があるブルゴーニュ、ジェラ地方の6オテル・デユー
石田純郎 (岡山大学医学部)
- O-6. 英国における医薬分業の成立とその背景
柳澤波香 (青山学院大学・津田塾大学)
- O-7. 島根県飯南町「殺虫散」の記録とその薬方について
成田研一 (島根県薬剤師会江津・邑智支部)
- O-8. 戦前期における日本ロシュの朝鮮進出
孫一善 (東京大学大学院薬学系研究科 特別研究員)
- O-9. 薬事法による電子たばこの規制の経緯とその後の動向
○齋藤充生^{1,2}、林譲¹、矢島毅彦¹
(¹ヘルスヴィジランス研究会、²(一財)日本医薬情報センター)

特別講演 14:30～15:30

座長：田中紀子(日本薬大)

百年を超えて生きる医薬品
～ジアスターゼ、アドレナリンと高峰譲吉～
石田三雄 (NPO 法人高峰譲吉博士研究会 理事長)

ポスター発表示説時間 15:30~16:20

- P-1. 愛に生きた人 長井長義 –テレーゼとの婚姻に関する公文書から–
五位野政彦（東京海道病院薬剤科）
- P-2. 大阪薬業界における伏見屋市兵衛商店の活動
安士昌一郎（法政大学イノベーション・マネジメント研究センター）
- P-3. 長井長義の父長井琳章所有の「本草綱目」
○木村孟淳¹、船山信次¹、磯田道史²（¹日本薬科大学、²国際日本文化センター）
- P-4. 老舗薬局に保管されていた医薬品からの歴史的考察（第2報）
松崎桂一（日本大学薬学部生薬学研究室）
- P-5. 松山大学における薬史学教育の現在—四国4薬学部連携システムを活用した講義—
○牧純¹、高取真吾²（¹松山大学薬学部感染症学、²松山大学医薬情報解析学）
- P-6. 大神神社鎮花祭における特別神饌「忍冬」について
○坂井至通¹、水野瑞夫²（¹薬草巧房舎、²岐阜薬科大学）
- P-7. 解熱消炎鎮痛剤の消長について
高橋春男
- P-8. 100%面分業で開始した院外処方せんの発行と薬剤管理指導(病棟)業務の同時実施のための戦略—福島県立医大病院薬剤部の場合（平成5年～平成15年）の評価と考察—
○江戸清人¹、尾形浩²、宗形明子³、安藤崇仁⁴（¹仙台医健専門学校、²福島医大薬理、³福島県薬剤師会、⁴帝京大学薬学部）
- P-9. 世界的特効薬サルファ剤は、いつ日本に入ってきたか？
小林力（日本薬科大学薬学部）

- P-10. 日中韓で現在使用される伝統医学処方の成立時期
○伊藤桃¹、柴田健太郎¹、佐々木裕伊²、高成奎 (Ko Seong-Gyu)²、津谷喜一郎³、新井一郎¹
(¹日本薬科大学薬学部、²慶熙大学校韓医科大学予防医学教室、³東京有明医療大学保健医療学部)
- P-11. 宇津薬師堂・格天井彩色画に描かれた植物に関する研究
○糸賀翔太¹、山路誠一¹、山下裕¹、池田満雄¹、宇津善博² (¹日本薬科大学薬学部、²宇津救命丸(株))
- P-12. 本草文献に見られる『何首烏』の記載と基原について
○竹内華織¹、山路誠一¹、小松かつ子² (¹日本薬科大学薬学部、²富山大学・和漢医薬学総合研究所)
- P-13. 『広恵濟急方』に見る江戸時代の民間救急療法
○小松かつ子^{1,2}、出口鳴美²、伏見裕利²、入口敦志³、相田満³、岩橋清美³ (¹富山大・和漢研・生薬資源科学分野、²同・民族薬物資料館、³国文研・古典籍共同研究事業センター)
- P-14. 「初代入江七平立志伝」に見る明治時代の試薬
○入江真理¹、入江寛² (¹日本医療保険研究所株式会社、²長崎大学名誉教授)

口頭発表 10~14 16:20~17:35 (各 15 分)

座長：松崎桂一 (日本大学)、齋藤俊昭 (日本薬大)

- O-10. ものづくり初期段階における開発プロセスと組織構築の相互関係
—日本の戦時ペニシリン開発研究を例として—
○小松明子 (筑波大学 人文社会科学研究所 国際日本研究専攻)
- O-11. 医薬系博物館の意義と日本における動向について
野尻佳与子 (奈良女子大学大学院)

- O-12. 『緒方洪庵の薬箱(阪大蔵)』研究：土苻の基原と実地臨床
○木村康人¹、上田大貴¹、高浦(島田)佳代子^{1,2}、高橋京子^{1,2} (1大阪
大学薬学部、²同総合学術博物館)
- O-13. 横浜司薬所と薬局方 (清水藤太郎先生とともに学ぶ)
清水眞知 (平安堂薬局)
- O-14. Goodman & Gilman's The Pharmacological Basis of
Therapeutics の編集上の史的変遷から見えてきたもの
小清水敏昌 (順天堂大学医学部医史学研究室)

次年度年会会長挨拶 17:35~ 17:45

日本薬史学会 2018 年会会長 寺田弘 (新潟薬大)

閉会の挨拶 17:45~17:50

日本薬史学会 2017 年会実行委員長 新井一郎

懇親会 18:00~20:00